

会長挨拶

このたび、本田壽彦（ほんだ としひこ）前会長の後任として、2025 年度全国小学校英語教育実践研究会の会長を拝命いたしました、九州ルーテル学院インターナショナルスクール小学部校長の上妻薫（こうづま かおり）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本研究会は、平成 16（2004）年に発足し、今年度で 21 年目を迎えました。ご存じのとおり、この研究会の立ち上げに尽力されたのは、元文部科学省視学官であり、現在は関西外国語大学教授の直山木綿子先生です。この 20 年間、京都市を中心に全国各地で全国大会が開催され、参加者が 2000 名を超えることもありました。現場のニーズに応え、実践に基づいた学びの場として、多くの先生方に支えられてきたことに、心より敬意を表します。

私自身もこの研究会を通じて、小学校英語への情熱を再認識し、授業づくりの楽しさや教材研究のおもしろさ、そして何よりも教師としてのやりがいを実感することができました。この素晴らしい学びの場を、次の世代へと引き継いでいきたいという思いから、会長職をお引き受けいたしました。

時代は大きく変わりました。2020 年度からは小学校 5・6 年生で英語が教科として正式に導入され、英語専科教員の配置や ICT 機器の活用も進んでいます。最近では AI の活用も話題となり、教育現場には新たな可能性と課題が共に訪れています。しかし、どれだけ環境が変化しても、「人は人によって育つ」という教育の本質は変わらないと私は考えます。人は、関わり・関わる存在であり、その相互作用の中で成長していくのです。

小学校英語は、「言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」を目指して実践を積み重ねていくことが大切です。また、学習指導要領において示されている「見方・考え方」には、「外国語で表現し合うために、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて情報を整理し、自分の考えを形成・再構築すること」が挙げられています。こうした力を子どもたちが学習や人生の中で自在に発揮できるよう支援することこそ、私たち教師の専門性であると記されています。

近年、教員の働き方改革や教員不足の影響により、教育現場を取り巻く環境も大きく変化しています。それに伴い、研究会に参加する教員の数も減少傾向にあり、英語に限らず各教科の研究会の継続自体が危ぶまれる状況となっています。こうした今だからこそ、改めて研究会の意義を問い直し、その価値を全国に広げていくことが必要であると感じています。これまで先輩方が築き上げてこられた貴重な財産を、次世代の教員たちへと確実に受け継ぎ、より豊かな学びの場をともに創ってまいりたいと願っております。

本研究会が、小学校英語に関心を持つ先生方をつなぎ、実践を共有し合い、教師としてのやりがい、授業の楽しさやおもしろさを再発見できる場となるよう、微力ながら尽力してまいります。

今後とも、皆さまのご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

全国小学校英語教育実践研究会

会 長 上 妻 薫

（九州ルーテル学院インターナショナルスクール小学部校長）